

フェイス

こくぶんじ

2025.4 No.56

講座レポート

男女共同参画週間講座

『日本のジェンダーギャップはなぜ低い?』

--- 2-3

講座レポート

国際男性デー企画

「パパ」のためのパートナーシップ教室

～育児をもっと楽しく 夫婦関係をもっとHappyに～

--- 4-5

あしあと

石井 美佐子さん

--- 6

ライブラリーニュース

『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた
—あなたがあなたらしくいられるための29問』

『きめつけないで!「女らしさ」「男らしさ」
～みんなを自由にするジェンダー平等～』①～③--- 7

あなたと私の
ジェンダーギャップ

日本のジェンダーギャップはなぜ低い？

—主要先進国・ASEAN諸国内で最低ランク。その理由は？—



講師

亜細亜大学国際関係学部教授
国連女性差別撤廃委員会副委員長

あきづき ひろこ
秋月 弘子さん

講座概要

開催日:2024年6月29日(土)

場 所:リオンホール

日本のジェンダーギャップ指数は主要先進国・ASEAN諸国内で最低ランク。その理由は何でしょうか？ 国連女性差別撤廃委員会副委員長の秋月弘子さんを講師にお迎えし、ジェンダー平等を達成するために、私たちができることを考える講座に参加してきました。

ジェンダーギャップとは性別の違いにより生じる格差のことを言い、ジェンダーギャップ指数とは、世界経済フォーラム(WEF)が毎年公表している、政治、経済、教育、健康の4つの分野ごとに算出される男女格差を示す指標です。

2023年に公表されたランキングの中で日本が際立って低い項目が、政治138位中113位と経済123位中120位です。順位が低くなった主な理由として、政治では国会議員(衆議院議員)の女性割合の低さ、経済では収入での男女格差が指摘されています。



日本では2000年から5年毎に見直している男女共同参画基本計画、2016年4月の女性活躍促進法のほかに2024年5月31日の女性版骨太の方針2024(原案)まで様々ありますが、残念ながら日本は世界に比べると何歩も遅れています。また、国内では、現在、選択議定書を批准しようという運動が強く進められていますが、同時に個人通報制度(※)を利用してゆくことが重要と考えます。

必要なことは、固定化された男女役割分担観念の変革、つまり完全平等論であり次の3点を中心理念としていくことです。

- ①法上の平等＋事実上の平等。
- ②個人、団体、企業による社会慣習・慣行の中での差別の修正、廃止を求める
- ③不平等な立場の人を優先的に処遇しても差別ではない＝暫定的特別措置

今後の課題として挙げられることは、①性的ジェンダーの固定観念を取り去る ②女性の参画、特に意思決定レベルでの女性比率を増加(議員・管理職)させる ③多様性・包括性をさらに進めることであり、解決する為に最も必要なものは、SDGsの精神：誰一人取り残されない社会を一人一人が目指すことです。

(※)個人通報制度は、国際人権条約に認められた権利を侵害された個人が受けた人権侵害の救済を求めることができる制度で、侵害を受けた被害者が国を相手に自由権規約委員会に訴える制度です。

感想

これまで勤めてきた企業では人権に係わる研修が充実し、男女の格差も意識することはありましたが、講義を受け格差がまだあることを知りました。格差是正のために、例えばジェンダーギャップ指数を大企業と中小企業に分けて算出してみると課題が明確になり具体的な解決策に結びつき易いのではないのでしょうか。また、ジェンダーギャップの問題は企業だけでなく小学校や中学校においても教育していくことが重要であると感じました。(は)

日本のジェンダーギャップ指数の低さから日本における「不」平等の現状を知る機会になりました。女性の差別撤廃条約は効力を発生して20年が経ちますが「選択議定書」未批准のままは残念です。未批准がゆえに講師の秋月さんは夫婦別姓を使えず、旧姓のまま海外で仕事をする度にパスポートと名前が一致せずトラブルになったことなど、興味深いお話を伺いました。政治・経済の場への女性の参画は男性とは違う視点が入り多様性が生じ、住みやすい世界に繋がることを学ぶ機会になりました。(と)

企画、運営、決定の場に女性の地位、女性ならではの価値観も投入した差別しない男女平等の生活基盤を作ってほしい。より良い生活はすべてお互いの人権を尊重し、その立場を理解し「不平等を平等に出来る」生活を家庭で、地域で、職場で「その人らしく生きられる真の男女平等」を希望します。(あ)

「パパ」のためのパートナーシップ教室

～育児をもっと楽しく 夫婦関係をもっとHappyに～



講師

NPO法人ファザーリング・ジャパン
多摩支部 代表

のぞき さとし
野崎 聡司さん

講座概要

開催日:
2024年11月16日(土)

場 所:
ひかりプラザ203・204

産前産後は「夫婦のパートナーシップ」のスタートダッシュの大切な時期。パートナーとの2人の時間の作り方や、感謝の表し方、お互いの「一番して欲しいこと」について、一緒に考える講座に参加してきました。

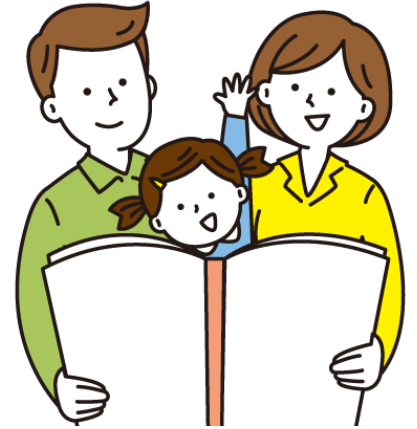
ファザーリング・ジャパンの野崎聡司さんが講師を務めた子育て講座が開催されました。野崎さんは、6歳と3歳のお子さんを育てるパパで、育休中から絵本の読み聞かせをするなど、積極的に育児に取り組んできました。自身の経験を通じて「良い父親」ではなく、「笑顔で楽しんでいる父親」を目指すことの重要性を伝えました。

参加者は0歳から3歳のお子さんを持つパパとママ7人。講座では、「子育ては期間限定のプロジェクト」として、子どもの成長の早さに注目し、パパが家族のためにどのように時間を作り、サポートするかを考えました。特に、出産による女性の心身の変化に対する理解や、夫婦のパートナーシップを築くための「スタートダッシュ」の大切さを伝えていました。出産直後の妻への配慮が、後々の夫婦関係に大きな影響を与えることを実感し、パパは日々の労いや感謝の言葉を伝えることが大切だとお話ししていました。



当日の講座の様子

講座後半では、自分を知り、相手を知る「MYトリセツ」というワークを使い、パートナーとの関わり方を見直し、今後どう改善していくかについて建設的な意見交換が行われました。パートナーとの向き合い方は自分自身と向き合うことであり、限られた子育ての時間をいかに楽しむかがポイントです。



「パパ、ママの愛、笑顔は、子どもの愛、笑顔。」
この言葉で講座は締めくくられ、参加者たちは家族との時間を大切に、笑顔で過ごすことの大切さを再確認しました。



感想

連れて来た子どもたちは託児所に預けて、身軽になり講座に出席。講師の野崎さんは軽妙な話しぶりで、笑っている父親になろう！と呼びかけるなど明るく楽しい講座でした。「MYトリセツ」ワークの問いに記入してみて、パパたちが今感じている正直な気持ちをみんなの前で話されました。パートナーとの関係について考え、労いや話を聞くことの大切さ、一緒に子育てを楽しく取り組んでいくことは家族の幸せにつながることを参加者が理解された有意義な時間になったと思いました。(と)

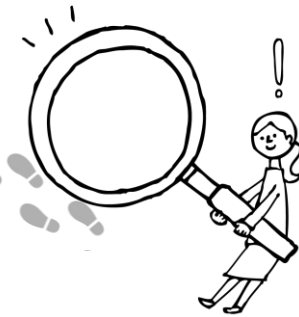
参加いただいたパパとママ7人、皆さん0歳から3歳のお子さんを連れて、帰りにはおんぶしたり抱っこしたり。その姿を見ていたら期間限定の子育ては大変だけど楽しんでほしいなと心から思いました。30年近く前に子育てを終えた者にとってはちょっぴりうらやましい光景でした。講師の笑顔とパパ、ママの真剣な発言から、多くの子育て中の方々にぜひ参加してほしい講座だと感じました。(て)

パパのためのパートナーシップ教室を受講して、お互いの違いを事前に理解していることで、気づけることや思いを寄せられることが多くあると学びました。お互いの気持ちを共有し、共感するためにも日頃からのコミュニケーションは重要です。円滑なコミュニケーションを図るためにも、相手を知るだけでなく、自分自身と向き合い、振り返ることが必要です。まさに、講座で演習をした「MYトリセツ」の活用が大切だと感じました。また、これは夫婦間だけではなく、すべての関係に当てはまることであると感じました。(い)

あしあと

いしい みさこ

石井 美佐子 さん（本多在住）



生い立ち

埼玉県所沢市の10数代続く家に生まれ、教育熱心な両親と5人兄弟の中で育ちました。家庭のしつけや物事のけじめについては厳しかったです。

結婚か就職かで迷った時期

世間の風潮は就職ではなく結婚を選ぶ人が多い中、都内の私立大学の図書室に入職。後に学長の秘書の仕事に就きました。

結婚を機に国分寺へ

結婚を機に国分寺市本多5丁目に住まいを構えました。子どもたちが小中学生の頃はPTA役員となり、通学路の安全や子どもたちが地域で過ごす居場所として公民館や公園を受け皿とするために、学校・家庭・地域との連携を進めました。また、本多公民館で活発に行われる行事や活動の多くに意見交換をしながら関わってきました。

本多5丁目町内会長を受けて

女性の町内会長はまだ珍しい時代でしたが、町内会員からの推薦をいただき会長の任を受けました。住宅地と商業地域の入り混じった町内会の一番の課題は、子どもたちの通学時の危険でした。安全に通学できるよう交番や警察署、工事会社とも協議を重ね、ご理解をいただきながら対策を進めてきました。また、地域のインフラについても対応を進めてきました。例えば、歩道の危険な場所については東京都に働きかけ歩道を整備したり、市道の街路灯については電球からLEDに変えるなど実績を作ってきました。本多地域は地域行事が盛んな場所です。地域活動を通じて行政への関わりや地域のつながりを深く感じる事が出来ました。

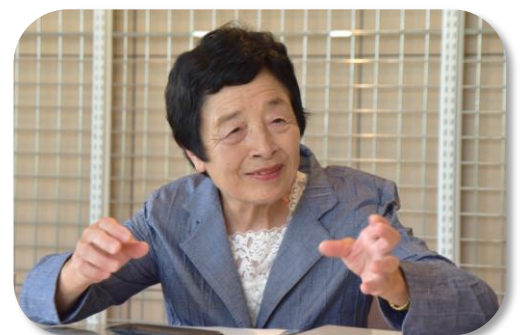
国分寺市での活動

一つは、国分寺市明るい選挙推進協議会会長として選挙への啓発活動を行っています。駅頭啓発をはじめ、選挙は国民が政治に参加し、主権者としての意志を政治に反映させる重要な機会であることを話し合う活動を実施しています。特に20代から40代の人たちには、投票率向上について話し合う機会を作り、小中高生に対しては、ポスターを募集し、後に活用するなどして啓発活動を進めています。

もう一つは、行政相談員(※)(総務省委託)を19年間行っています。委嘱を受けた当時は、家庭内暴力やジェンダー格差が社会問題化してきた頃だったため、女性の相談員を推薦したいとの市担当者からの依頼で引き受けました。相談者の身になって話をよく聞き、人と人とのつながりや世代を超えた悩みの相談に対応しています。

仕事など活動する女性に伝えたいこと

社会情勢がめまぐるしく変化する中、女性の社会進出・活躍が期待されています。まずは身近なところから一歩踏み出してみませんか。



(※)総務大臣の委嘱した民間有識者で全国に5,000人が配置されています。地域に信望の厚い方々が無報酬で国民の皆様から国の行政活動全般に関する苦情や相談を受け、相談者への助言や関係機関に対する改善の申し入れなどを行っています。



『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた—あなたがあなたらしくいられるための29問』
佐藤文香【監修】明石書店

■ジェンダー(ある行動の原因をその人の性別に求める考え方を指す言葉)についての研究をしてきた大学生が自分たちに投げかけられた問いに答える形でジェンダーについて考えていく。また、ハラスメントやポジティブアクションにも触れながら不平等な機会のは正と差別の解消について学ぶ。自分が誰かを傷付けたり排除したりしている可能性を認識し、他者との差異を認めながら様々な人々と連携していくこと。これこそがみんなで「幸せになる」という目指すべき社会の在り方ではないかと本書は教えてくれている。(て)



『きめつけないで! 「女らしさ」「男らしさ」~みんなを自由にするジェンダー平等~』①~③
治部れんげ【著】汐文社

■性別でくくったり決めつけたりしなければもっと自由になれるよ、ということが、具体的な事例とともに書かれている本。振り仮名つきのため、ジェンダー格差の大きい日本の現状を学ぶ日本語テキストとしても使える。決めつけに気づき、減らし、暮らしやすい社会を作るために、子どもには、「おかしいと思ったことは我慢せずに周りの人と話してみよう」と、大人には、「私たちが子どもの頃の常識は通用しません」と呼びかける。私たち一人一人がどのように受け止めて実行していくかを考えていこう。(わ)

新着図書のご紹介



『ステレオタイプの科学 「社会の刷り込み」は成果にどう影響し、わたしたちは何ができるのか』
クロード・スティール【著】藤原朝子【訳】
英治出版



『なぜ男女の賃金に格差があるのか 女性の生き方の経済学』
クラウディア・ゴールドティン【著】
鹿田昌美【訳】
慶應義塾大学出版会



『自分も傷つきたくないけど、他人も傷つけないあなたへ』
アルティシア【著】
KADOKAWA



『せかいでさいしょにズボンをはいた女の子』
キース・ネグレイ【作】
石井睦美【訳】
光村教育図書

ライツこくぶんじ図書資料室の利用方法

開室時間	月曜日から金曜日の9時から12時まで、13時から17時まで 土・日・祝日・ひかりプラザ休館日(原則第2・4月曜日)・年末年始(12/28~1/3)を除く
利用できる方	本を借りることができるのは、国分寺市に在住、在勤、在学、在活(ライツこくぶんじで相談・活動中の方を含む)の方です。
初めて図書等を借りる方は	「貸出登録票」に記入し、住所・氏名がわかるもの(保険証・免許証など)を提示してライツこくぶんじ職員に利用カードの発行申し込みをしてください。ライツこくぶんじ専用の図書資料室利用カードを発行します。
図書等を借りるには	借りたい図書等と「ライツこくぶんじ図書資料室利用カード」を職員に提示してください。図書は1人5冊まで、視聴覚資料(CD、DVD等)は1人2タイトルまで借りられ、貸出期間は2週間です。 【注意】市内図書館の利用カードでは貸出しできません。
返却方法	ライツこくぶんじ事務室が開いている時は、直接職員にお返しください。図書資料室開室時間外及び休室日は、ひかりプラザ2階事務室入口横の返却ポストに入れてください。

編集後記

ジェンダーに関連する講演会に参加し、記事を書くことは価値観を変化させるよい学びになっています。(と)

ジェンダーや子育てを考える時、我々の世代とは大きく変化しているが本当の平等まではまだまだと実感しました。(て)

今年度は中々携わることができず、皆さんに頼り切ってしまいましたが、講座への取材では、新たな気づきや学びが多くあり、貴重な機会を頂きました。(い)

孫が通っていた幼稚園では男の子の子が分け隔てなく何時でも手を繋いでいました。手を通して心を通わせていると感心しました。(は)

ジェンダーを考える度に多面的な課題に気づき歴史を変える今、自分らしく相手を思いやる事も大切だと思います。(あ)

表紙のハグロトンは東京では絶滅の危険が増大しています。生きものすべてが暮らしやすい社会になりますように。(わ)

生理用品の無料配布

様々な事情から生理用品の入手が困難な方に防災備蓄品の生理用品を無料で配布します。



生活福祉課(市役所2階)
人権平和課(市役所4階)
男女平等推進センター(ひかりプラザ2階)
社会教育課(ひかりプラザ1階)※土日・夜間のみ
市社会福祉協議会(福祉センター)

詳細はこちらから



相談室のご案内

相談はひかりプラザ2階で行います。
ひかりプラザの場所は、下記の地図をご確認ください。

悩みに応じて相談(無料)をお受けします。
相談内容やプライバシーに関する秘密は
厳守します。
※祝日・休館日・年末年始は相談を実施していません。



▼女性の悩みごと相談(電話・面談・メール)

月～金曜日 9時～12時、13時～17時

*面談受付は16時まで

オンライン相談は事前予約制で可能です

▼犯罪被害者等支援相談(電話・面談・メール)

月～金曜日 9時～12時、13時～17時

*面談受付は16時まで

予約不要

☎ 042-573-4342

▼女性のためのカウンセリング

(電話・面談・オンライン)

原則第2・第4火曜日 13時30分～16時30分 ※1回50分

▼女性のための法律相談(面談・オンライン)

原則第3木曜日 13時30分～16時30分 ※1回30分

▼にじいろ相談(電話・面談・オンライン)

原則第3水曜日 17時～20時 ※1回60分

予約制

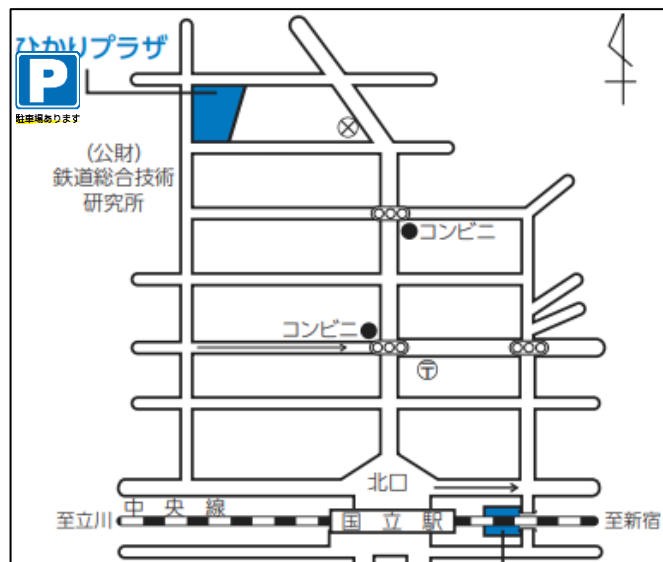
☎ 042-573-4378

相談専用メールアドレス ✉ soudan@city.kokubunji.tokyo.jp

ライツこくぶんじ (男女平等推進センター) 団体登録の受付

男女共同参画社会の実現を目指して学習や活動を行っている団体の登録を受け付けています。登録団体には活動支援のため、使用料の免除及び優先的に施設の貸し出しを行っています。継続・新規で登録を希望する団体は、申請が必要です。申請書は市ホームページからもダウンロード可能です。

ライツこくぶんじ案内図 (男女平等推進センター)



No.56

国分寺市立男女平等推進センター情報誌「ライツこくぶんじ」国分寺市市民生活部人権平和課
「ライツこくぶんじNo.56」編集委員 朝倉さく・林博巳・井岡裕輝・寺崎文子・富永順子・渡辺典子
〒185-0034 東京都国分寺市光町1-46-8 ひかりプラザ2階 電話042-573-4378 FAX042-573-4388